



# 統計スポット情報

## 一 平成22年国勢調査の結果 ～人口等基本集計から～ 一

平成22年国勢調査の人口等基本集計結果が平成23年10月26日に公表されました。平成22年10月1日現在の福井県の人口は806,314人、総世帯数は275,599世帯でした。そこで今回は、この人口等基本集計結果からわかる福井県内の市町ごとの様々な指標について見ていきましょう。

### 1 1世帯当たり人員は越前町がトップ

図1 市町別一般世帯の1世帯当たり人員

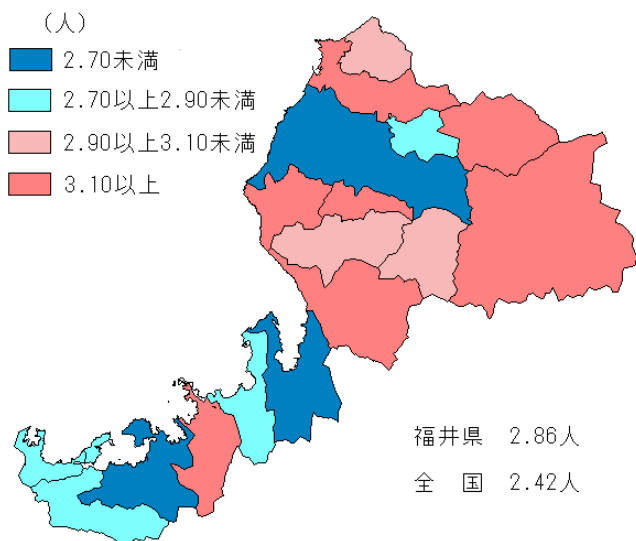


表1 市町別の人口および世帯数、一般世帯の1世帯当たり人員

	人口(人) 総数	世帯数(世帯)		一般世帯の 1世帯当たり	
		総世帯	一般世帯	人員(人)	順位
福井県	806,314	275,599	274,818	2.86	
福井市	266,796	97,446	97,236	2.67	15
敦賀市	67,760	26,453	26,409	2.52	17
小浜市	31,340	11,477	11,445	2.67	15
大野市	35,291	10,847	10,813	3.18	4
勝山市	25,466	7,773	7,744	3.18	4
鯖江市	67,450	21,028	20,987	3.13	7
あわら市	29,989	9,735	9,694	3.01	10
越前市	85,614	27,601	27,538	3.05	8
坂井市	91,900	28,744	28,698	3.16	6
永平寺町	20,647	7,217	7,211	2.82	11
池田町	3,046	1,006	995	3.02	9
南越前町	11,551	3,483	3,437	3.28	2
越前町	23,160	6,728	6,716	3.34	1
美浜町	10,563	3,879	3,857	2.70	13
高浜町	11,062	4,044	4,038	2.70	13
おおい町	8,580	3,144	3,140	2.71	12
若狭町	16,099	4,994	4,860	3.20	3

はじめに、一般世帯の1世帯当たりの人員について見てみましょう。

福井県の1世帯当たり人員は2.86人で、全国でも2番目の多さです。県内市町別に見てみると、トップは越前町の3.34人でしたが、県内すべての市町で全国平均の2.42人を大きく上回っています。



## 2 3世代世帯と単独世帯の割合

1世帯当たりの人員が多いということは、一緒に住んでいる家族の人数が多いということです。ここでは、3世代が同じ家に住んでいる世帯（3世代世帯）の割合と一人暮らし世帯（単独世帯）の割合を見比べてみます。

3世代世帯の割合が大きい市町は、南越前町、越前町、大野市の順になっており、やはり1世帯当たり人員の多い市町です。（相関係数は+0.92）

一方、単独世帯の割合が大きい市町は、永平寺町、福井市、敦賀市の順になっており、大学や原子力発電所がある市町では単身者の割合が多いせいか、やはり単独世帯の割合も高くなっているようです。（1世帯当たり人員との相関係数は-0.91）

図2 市町別3世代世帯の割合

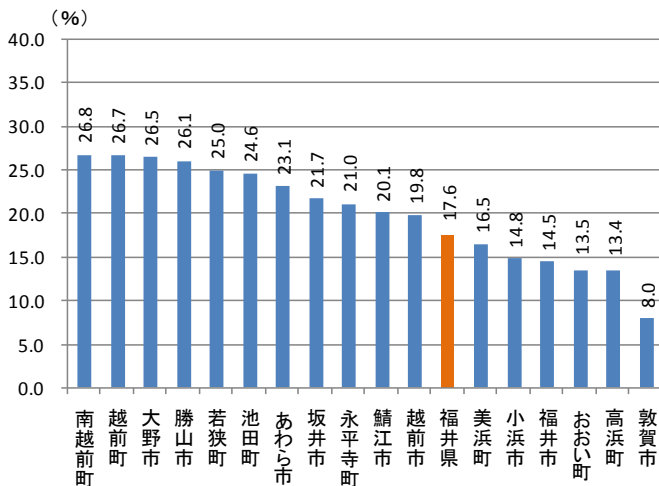
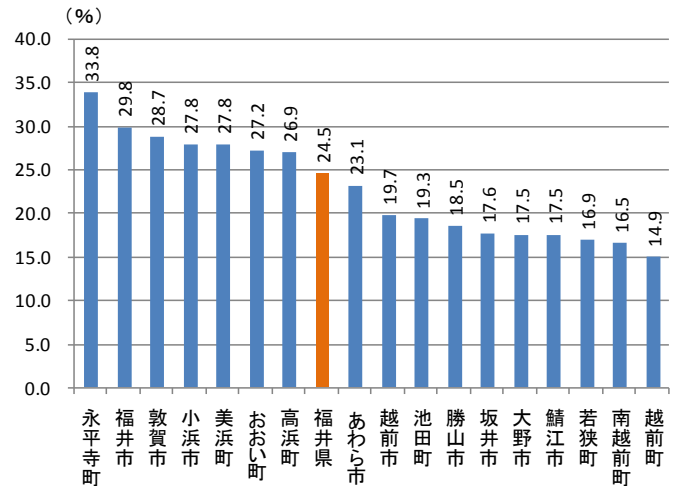


図3 市町別単独世帯の割合



## 3 持ち家率

次に、住宅の所有の関係について見てみましょう。

住宅に住む一般世帯に占める「持ち家」の割合である持ち家率は、福井県全体では75.7%で、全国でも3番目に高くなっています。

その中でも池田町、南越前町、越前町、勝山市、大野市、若狭町の6つの市町では持ち家率が極めて高く、90%以上の世帯が自分で所有する家に住んでいるということが分かります。

※住宅に住む一般世帯数は、一般世帯のうち住宅以外（寄宿舍・寮や病院・学校・旅館・会社・工場・事務所など）に居住している世帯を除いたもの。

表2 市町別持ち家率

(単位: %)

順位	市町名	持ち家率
1位	池田町	95.0
2位	南越前町	94.3
3位	越前町	92.4
4位	勝山市	90.7
5位	大野市	90.2
	若狭町	90.2
(参考)	福井県	75.7
	全国	61.9



### MEMO

#### ○住宅の所有の関係

「持ち家」とは、居住する住宅がその世帯の所有である場合を指します。マンションなどであっても、その世帯が所有している分譲住宅(分割払い等で支払が完了していない場合も含みます。)であれば、「持ち家」に入ります。

#### ○住宅の建て方

「一戸建」は1建物が1住宅であるものを指し、店舗併用住宅などでも1建物が1住宅であれば、ここに含まれます。「共同住宅」は棟の中に二つ以上の住宅があるもので、廊下・階段などを共用しているものや二つ以上の住宅を重ねて建てたものを指します。

詳しくは総務省統計局ホームページへ → <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/users-g.htm>

## 4 一戸建率・共同住宅率

次に、住んでいる住宅の建て方の視点から見てみましょう。

「一戸建」の住宅に住んでいる世帯の割合は、福井県全体では78.0%で全国4位です。持ち家率の高かった6市町では、やはり90%以上の世帯が一戸建の住宅に住んでいます。自分で所有する一戸建住宅に住んでいる人が多いということでしょう。

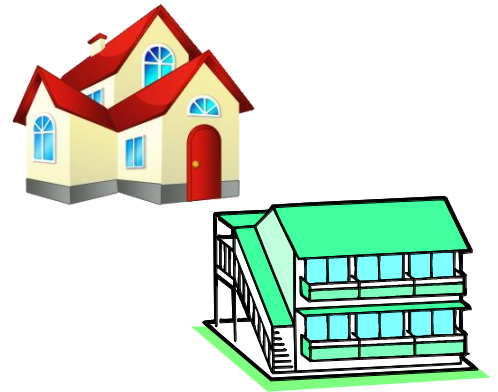
一方で、マンションやアパートなどの「共同住宅」に住んでいる世帯の割合は、福井県全体では20.5%で全国6位の低さです。県内で福井市、敦賀市、永平寺町、小浜市が上位に来ているのは、アパート暮らしの大学生や独身・単身赴任の社会人が多いせいなのかもしれませんね。

表3 市町別一戸建率  
(単位:%)

順位	市町名	一戸建率
1位	池田町	98.4
2位	南越前町	96.8
3位	越前町	94.9
4位	大野市	93.1
5位	勝山市	93.0
	若狭町	93.0
(参考)	福井県	78.0
	全国	55.7

表4 市町別共同住宅率  
(単位:%)

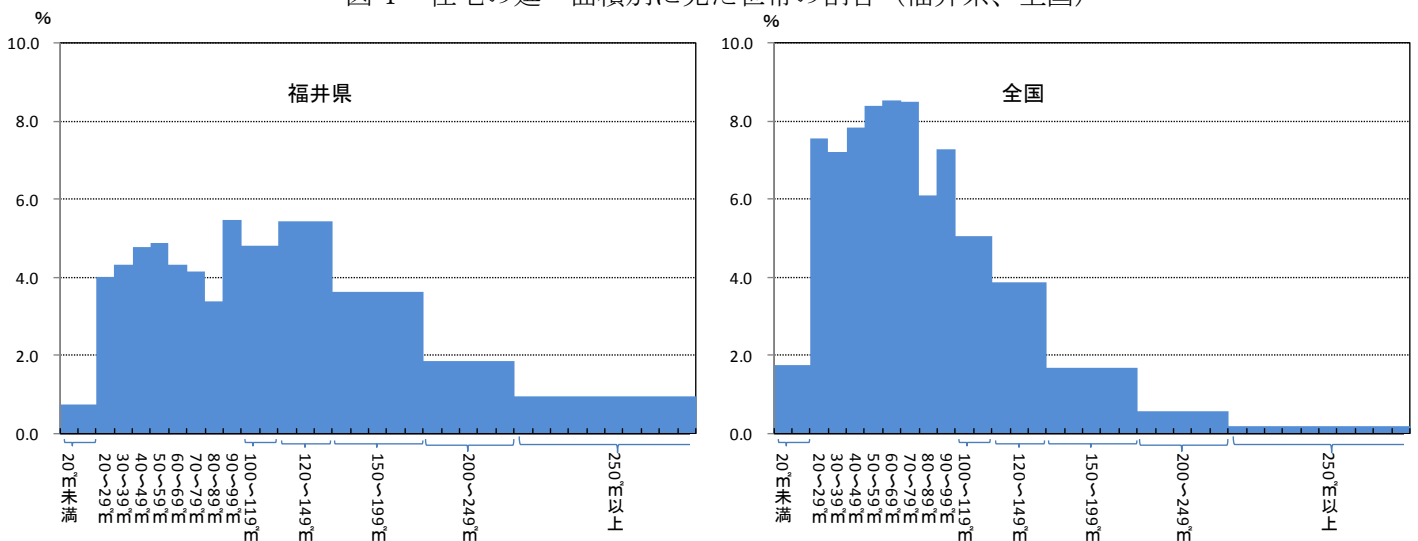
順位	市町名	共同住宅率
1位	福井市	30.2
2位	敦賀市	26.7
3位	永平寺町	24.7
4位	小浜市	20.4
5位	越前市	16.7
(参考)	福井県	20.5
	全国	41.6



最後に、住宅の床面積の合計(延べ面積)について見てみましょう。平成22年国勢調査では1世帯当たりの平均値は公表されていませんが、延べ面積の幅で世帯数の分布がわかります。ここでは福井県と全国を比較してみます。

図4は、福井県と全国の世帯数※の合計をそれぞれ100として、延べ面積の広さごとに世帯数の割合を表したものです。全国に比べてみると、福井県はグラフの右側、つまり面積の広い方にも分布が広がっています。延べ面積が120㎡以上の世帯の割合をみると、福井県は53.5%と全世帯の半数を超えているのに対し、全国は25.0%と全世帯の4分の1となっています。 ※住宅に住む一般世帯

図4 住宅の延べ面積別に見た世帯の割合(福井県、全国)



福井県は、法政大学の発表した「47都道府県の幸福度に関する研究結果」で県民の幸せ度第1位になりました。このランキングの作成には、今回取り上げた持ち家率の指標も使われています。このように、大学や民間の研究機関などにおいても国勢調査の結果は広く使われており、さまざまなことがわかります。

平成 24 年 2 月 1 日現在で、経済センサス・活動調査を実施します。



～事業主の皆様へ～

- ・支社等を有する企業等には本社等に調査票を郵送し、インターネット又は郵送で回答していただきます。
- ・支社等のない事業所等には平成24年1月中旬頃より、経済センサス・活動調査 調査員証を携行した調査員が訪問し、調査票を配布、回収いたします。

# 平成 24 年 経済センサス 活動調査

「経済の国勢調査」です。全国すべての企業・すべての事業所が対象です。

\*\*\*\*\* 調査票は平成24年1月末日までにお届けします。2月1日以降に提出をお願いします。\*\*\*\*\*

- この調査は、統計法に基づく基幹統計調査で、調査票に記入して提出する義務があります。
- 提出された内容は統計作成の目的以外(税の資料など)には、絶対に使用しません。

経済センサス

検索



総務省・経済産業省・都道府県・市区町村 <http://www.stat.go.jp/data/e-census/campaign/index.htm>

## ～平成 21 年経済センサス・基礎調査より～

福井県の事業所構成割合をみると、卸売・小売業や製造業、宿泊業、飲食サービス業、建設業などの割合が高いことが分かっています。

では、個人経営事業所単位で見るとどういった業種が多いのでしょうか？今回は産業小分類別で見ました。

ビルくんとケイちゃん



経済センサスキャラクター

産業（小分類）別、個人経営事業所数（民営）（事業所数上位 20）

産業小分類	個人経営 事業所数	人口千人あたり	
		福井県	県÷全国
<b>福井県</b>			
全産業（農林漁業除く）	21,624	26.76	1.39
1 美容業	1,269	1.57	1.37
2 バー、キャバレー、ナイトクラブ	883	1.09	1.20
3 理容業	854	1.06	1.29
4 その他の飲食料品小売業	739	0.91	1.36
5 専門料理店	669	0.83	1.09
6 喫茶店	638	0.79	1.68
7 旅館、ホテル	628	0.78	4.42
8 酒場、ビヤホール	571	0.71	0.82
9 他に分類されない小売業	513	0.63	1.22
10 教養・技能教授業	491	0.61	1.18
11 療術業	470	0.58	1.13
12 他に分類されない製造業	435	0.54	9.67
13 洗濯業	387	0.48	1.45
14 菓子・パン小売業	360	0.45	1.44
15 大工工事業	350	0.43	2.94
16 酒小売業	349	0.43	1.54
17 木造建築工事業	344	0.43	1.50
18 婦人・子供服小売業	335	0.41	1.91
19 織物業	323	0.40	8.05
20 食堂、レストラン	307	0.38	1.32

(出典) 総務省統計局 平成 21 年経済センサス・基礎調査確報集計結果

個人経営事業所数最も多いのは「美容業」で、「理容業」も 3 位につけています。小売業の中で最も順位の高いものは「その他の飲食料品小売業」（コンビニエンスストア、料理品小売業、豆腐・かまぼこ等加工食品小売業など）となっており、また「喫茶店」、「旅館、ホテル」などが上位にきています。

人口千人あたりの個人経営事業所数で県と全国を比べてみると、福井県は「喫茶店」が 1.68 倍、「旅館、ホテル」が 4.42 倍など宿泊業、飲食サービス業の比率が高めであるほか、「他に分類されない製造業」（眼鏡製造など）が 9.67 倍、「織物業」が 8.05 倍、「大工工事業」が 2.94 倍などと高い値であり、福井県の産業構造が現れています。